

令和6年度事業報告書

事業報告書（法人）

1 法人事業活動状況

本年度は、ダックの移転について、地主様・設計者様のご理解とご協力を得て、開所に向けて、身の丈に応じたプランを立てていただき、長年の懸案事項であった快適な施設運営についての具現化ができた。

また、鹿沼市のひきこもり支援事業が、厚生課から社会福祉協議会に委託され、民間ですでに実施している事業者と共同で推進することが決まり、7年度実施に向けての準備が行われた。青少年相談員が持つ困難ケースについてもひきこもり協議会の民間の事業者の協力により、新しい展開が提案された。また、居場所スペースとして、CCVのヒノキラボコブルのリトルジェム、ほわっと自然村が連携し、困り感のある方が自己肯定感をもって意思決定できるようになるまでの伴走を行うための組織が構築された。

CCV学園高等部終了後、自立訓練から就労移行に入る方が多かったが、近年は専門学校や専攻科に進学する方が増え、本事業は休止となった。その後はB型事業が自立訓練的役割を担い、ヒノキラボを活用した。CCV学園卒業生等が、就労先等でうまくいかず、ひきこもり期間を経てヒノキラボに訪れ、B型に入る流れができた。

最近の不登校児童は早期に学校が出席認定をして本人の選択を認めるかわかりがふえたためか、回復が早く、高校も通信制ができているので、ストレスが少なく進学できる生徒が多くなっている。CCV学園高等部も徐々に入学生徒が増えている。

能登支援では、現地に4回支援に出向く機会を作った。CCVのお菓子に能登の産物を加えた商品を開発し、関係各所での販売で地域の協力が得られた。「能登を忘れない」社会的な意識啓発活動ができた。

放課後等デイサービス「CCVEpic」はCCV学園との融合をさらに進め、不登校相談の拠点としての役割を深めた。芸術活動・スポーツ・ゲームなど多様な学びを展開し、活動は定着したが、今後は講師の先生のリードだけでなく、異年齢で学び、中学生の意思決定を高校生がサポートするような場として機能させて行く方針を試みる。

2 総会・理事会の開催状況

(1) 総会

日時 令和6年6月3日（月）（まちなか交流プラザ）
議題 令和5年度事業報告・決算報告について
令和6年度事業計画・予算について
規定の変更について
役員改選について

(2) 理事会

令和5年3月27日（木）（社会福祉協議会）

3 管理者会議

毎月1回開催 参加者 理事長 所長 部長
予算執行状況の確認 法人全体の将来ビジョン 行政との連携などについて協議

4 運営会議

毎月1回開催。参加者 理事長 所長 部長 主任
予算の執行状況の確認、各事業所報告、地域課題 地域連携などについて協議